

理科

➡ 3年生 | 「生き物の観察」

比べて感じる生き物の不思議

1. はじめに

3年生の理科で計画されている植物の観察は、最初は生活科で行ってきた植物観察との違いが明確でなく、児童の興味・関心を惹きづら^ひい学習内容です。そこで、3年生の学習のキーワードである「比べる」を大切に^ひした授業提案をしたいと思います。

2. 比べるって楽しいよ

いくつかの生き物を比べて観察することで、違う生き物なのに根・茎・葉・花などの共通する部分があることに気づきます。また、観察をする中で、葉や花の形、大きさは植物によって異なることにも気づいていきます。そうした体験を通して、今まで当たり前前に接してきた身の回りの生き物への興味・関心が増し、より主体的に学習に取り組もうという態度が養われていきます。

3. 観察の基本的な技能を高める3つの指導法

生き物を比べながら観察するためには、見る・嗅ぐ・触る・聞く・味わうなどの五感を活用したり、定規や虫眼鏡、双眼実体顕微鏡などの器具を使用したりするなどの技能が必要になります。それらの技能を児童に身につけさせる指導法を3つ紹介します。

(1) クイズ指導法

教師が「観察してごらん」と言うだけでは、児童はなかなか観点が分からず困ってしまいます。また、「葉の大きさを測りなさい」「花びらの数を数えなさい」など観察のポイントを指示してしまっ^ひては、児童にとって「やらされている観察」になってしまい、主体的な学習であるとは言えなくなります。それらの悩みを解決するには、次のような手順で指導すると

効果的です。

① 児童の自由観察

まずは自由に観察させます。

② 観察対象を隠す

観察していたものを見えないように隠します。

③ クイズを出す

「一番大きい葉は何cm?」、「ヒマワリとホウセンカとピーマンの中で一番背が高いのは?」などのクイズを出します。児童はクイズを楽しみながら観察のポイントを確認することができます。また、定規や虫眼鏡を使って観察したいという意欲も高めることができます。

④ 再度観察する

児童は、クイズで答えられなかったものについて調べたり、定規や虫眼鏡を使った観察に挑戦したりと、一回目よりも意欲的に観察に取り組めます。



(2) ほめほめ指導法

新しい観^ひ点で観察を行っている児童をほめ、全体に周知することで観察の技能を高めます。

(3) くりかえし指導法

虫眼鏡や双眼実体顕微鏡などの観察器具は安全などに配慮した上で自由に使えるようにしておく^ひと、児童はくりかえし使用する中で技能を高めていくことができます。

4. 終わりに

生き物は不思議がいっぱいです。理科の学習を通してたくさんの不思議に気づけるように支援してあげることが教師の役割だと思います。